

講義名	対)観光事業論			
担当教員	石橋 仁美/高田 宏/濱田 実 / 山川 拓也/辻本 千春			
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 4時限	授業形態	講義	
履修開始年次	1年生	単位数	2	備考

主題と概要

本科目は、一年次前期「教養特講（観光学へのいざない）」の観光ビジネス・観光事業に係る部分を発展させるもので、学部の基幹科目として位置づけられる。旅行・観光まちづくり・ホテル・航空・ブライダルといった各事業分野での経験が豊富な教員のオムニバス講義により、それぞれの事業や経営の構造（仕組み）、各分野の現状・課題・将来展望など、関連事業を含む広義の観光ビジネス・観光事業に関する概要について学修する。

到達目標

観光事業の定義について説明できるようになる。
観光事業の仕組みや経営構造を把握して理解することができるようになる。
観光事業を自分のキャリアと関連して考えることができるようになる。
観光事業に必要な技術や資格について具体的に考えることができるようになる。
普段から観光と観光事業の関係性を考えることができるようになる。

提出課題

- ・毎回の授業終了後、期限内に提出を求める「ミニッツ・ペーパー」(responにて実施)
- ・担当教員より、講義内・講義後に提出課題を義務づけることがある。(各担当教員からの説明を聞くこと)

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック

授業開始時に、課題を取り上げて解説を加える。レポート課題に対する個別のフィードバック手法については、オムニバス担当教員から授業時に周知される。

評価の基準

下記による総合評価とする。

オムニバス担当教員による各回評価の累積：100%（各担当教員の評価を持ち寄った上で評価する）

*毎回の出席確認は、responやマークシート等を用いて厳格に実施する。
*「ミニッツ・ペーパー」の提出がない場合、教室内に居た者であっても当日の出席は無効とする。
*各教員が指示する課題の提出がない場合、課題に対する得点は(ゼロ)点となり、評価に影響を及ぼす。
*遅刻の欠席回数が多い回数以上になった場合、評価を下げられる資格がなくなる。(失格/E)
*遅刻(時間の長短を問わない)は、2回で1回の欠席としてカウントする。
*スマホ等の電子機器の使用が許可かつ私的な使用、私語や通話の継続、教員の指示や指導に従わない等は態度不良・授業妨害と判断し、評価に重大影響を及ぼす。
*ミニッツ・ペーパーの記述内容が後者の場合、一定基準のもとで加点する。

履修にあたっての注意・助言他

- ・本科目は、オムニバス形式(担当教員によるリレー講義)により実施する。
- ・本科目は、観光学部の専門科目のなかでも重要度が高く、その後の応用展開の基礎となるものであることから、着実な学修が望まれる。

教科書	.使用しない。			

プリント資料及び参考文献

プリント資料：各担当教員が準備・配布する。
参考文献：講義中に適宜紹介する。

授業計画

- 1.【ガイダンス・開題】(担当：山川) 科目概要・授業方法・成績評価等の説明。「観光事業」とは何か
- 2.【法整備としての旅行事業】(担当：山川) 観光産業における旅行事業の位置づけと仕組みについて
- 3.【旅行業における事業モデルの変化】(担当：山川) 旅行事業の現状と対応、これからの課題について
- 4.【観光の新しい流れ】(担当：辻本) 観光事業、観光産業における観光形態の変化について
- 5.【I RとM I C E】(担当：辻本) 集客装置としてのI Rとその意義について
- 6.【観光まちづくりとI M O】(担当：辻本) 観光地経営の重要性について
- 7.【「ホテル」とは何か】(担当：高田) ホテルの歴史、種類などの基礎知識について
- 8.【宿泊事業について】(担当：高田) ホテルの事業構造について
- 9.【with コロナ時代のホテル】(担当：高田) これからのホテル事業に関するディスカッション(討論)
- 10.【航空事業の観光産業への役割】(担当：濱田) 航空の歴史や課題、航空事業が果たす役割について
- 11.【エアラインの事業戦略】(担当：濱田) エアラインの事業特性と航空事業戦略について
- 12.【航空事業の課題と展望】(担当：濱田) 航空事業の課題と今後の展望について
- 13.【観光業の視点から見たブライダル事業】(担当：石橋) 観光資源を活かしたブライダル事業について
- 14.【地方活性化とブライダル事業】(担当：石橋) 地域文化や歴史的建造物を活かしたブライダル事業について
- 15.【まとめと総括】(担当：山川)

<備考>
・新型コロナウイルス感染症等の学校感染症への感染者または濃厚接触者に指定され、一時的に通学困難となった場合は対面授業の中での対応とする。
(オンデマンド授業へ移動はしない)

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア：PBL(課題解決型学習)	イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他(A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

(予習：120分/回)
・新聞や雑誌を含む書籍類、インターネット等のメディア情報にアクセスして授業内容に関連する情報を収集しておくことにより、効率的かつ効果的な受講に備える。
(復習：120分/回)
・当日の授業内容を整理するとともに、指示された課題に取り組みることにより、学修の効果的定着に努める。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本科目の目標に到達することは、観光事業と観光客・地域コミュニティ・地域資源との関係性について理解できるようになることを意味しており、総じて本学と本学科のディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)に関連する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

- ・毎回の授業後に実施する「ミニッツ・ペーパー」等の課題への取り組みにおいて、respon等のICTを活用する。
- ・必要に応じて授業中でもrespon等を使用し、意見収集等を行うことがある。

実務経験の有無及び活用

「実務経験あり」
<日本>旅行業でのソリューション営業の経験と知見を活かし、観光まちづくり事業全般に関して講義する。
<山川>旅行業および旅行サービス総合社での経験と知見を活かし、旅行事業全般に関して講義する。
<高田>ホテル(総支配人・マーケティング)での経験と知見を活かし、宿泊事業全般に関して講義する。
<濱田>エアライン(旅客・貨物)での経験と知見を活かし、航空事業全般に関して講義する。
<石橋>ウエディングプランナーとしての経験と知見を活かし、婚礼事業全般に関して講義する。

備考

- ・担当教員：辻本千春、高田宏、石橋仁美、濱田実、山川拓也(主幹教員)
- ・事情により講義の順番が入れ替わることがある。
- ・新型コロナウイルス感染症等の学校感染症への感染者または濃厚接触者に指定され、一時的に通学困難となった場合は対面授業の中での対応とする。(オンデマンド授業へ移動はしない)

・本科目は、観光学部の専門科目のなかでも重要度が高く、その後の応用展開の基礎となるものであることから、着実な学修が望まれる。